

網膜対応検査②(偏光版テスト:Pola test) - 多目的両眼視機能検査



目的

- できるだけ日常視に近い状態での遠視の眼位・立体視・不等像などの両眼視機能検査
- できるだけ日常視に近い状態(両眼開放)での視力検査

準備物 偏光版検査器・偏光フィルタ 分離方法 偏光フィルタ 検査方法 F 対 P

例) Nikon NC-7



明室にて遠用は 5m 又は 6m (近用は 40cm ツアイ
ス製) で偏光フィルタを装着して検査する

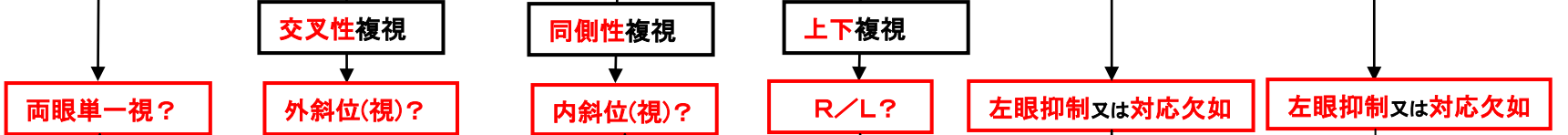
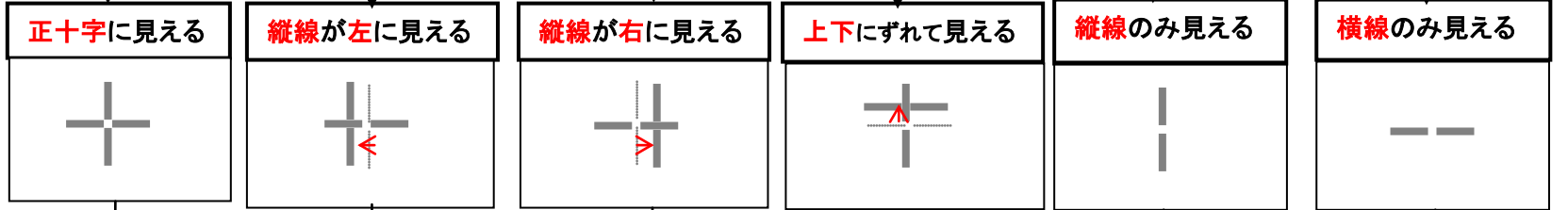
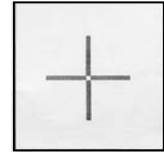


原則として中心窩固視で
左右の著しい視力差がなく、網
膜対応が正常であるもの。

例) ツアイス製 ニコン製

斜位(十字)テスト

* 右眼に | 左眼 -- が見える場合

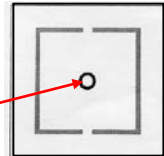


この場合の判定方法は判ってるよね。
復習しておくこと。

偏光フィルタの上から固視眼と思われる方からカバーテストをする(顕性の偏位を確認する)

不等像視(コの字)テスト

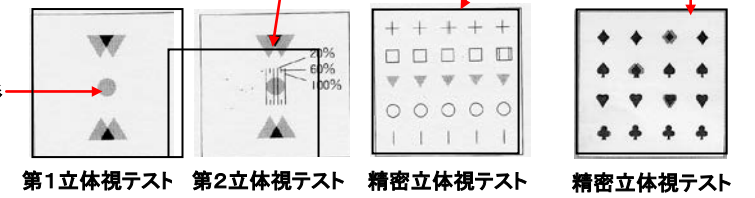
* 右眼に] 左眼 [が見える場合



視能学 P314 図 33 では 1 幅
で 7% となっているが、3.5%
だと思うが...

浮き出した上下三角形の頂点の、
中央Oからの位置によって、左右
眼の均衡状態の定量ができる。

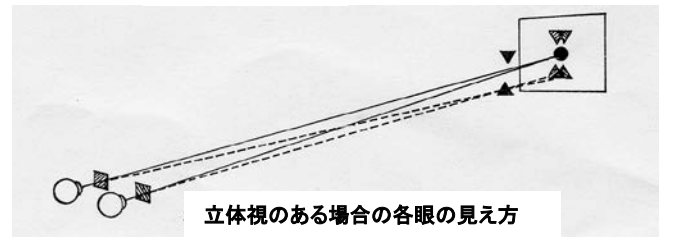
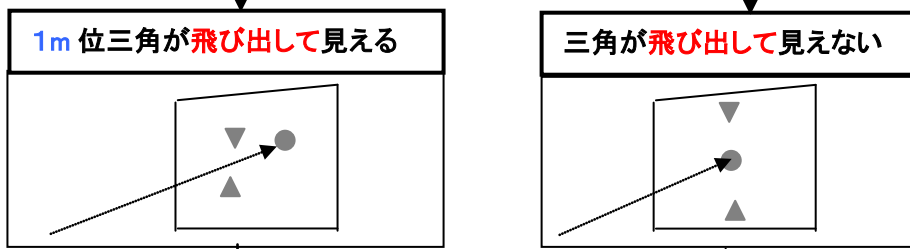
例) ツアイス製 4' 3' 2' 1' 0.5' の視差にて定量可能
ニコン製 4' 3' 2' 1'



中央に融像図形がある為、抑制がかかりにくく十字テストで抑制のかかるような上下偏位も測定でき、プリズムで中和すると定量もできるとなっており、視能学 P314 図 33 では丸円が融像した図となっているが、感覚性融像範囲内の僅かな偏位なら中央のOも融像することも可能だが偏位が大きい場合は線条レンズの光源のように2つになると思うが...

立体視テスト

* 右眼に左側 左眼に右側 が見える場合



視能学 P314

YES 偏光フィルタを上下逆にすると三角が凹んで見えるか?

NO

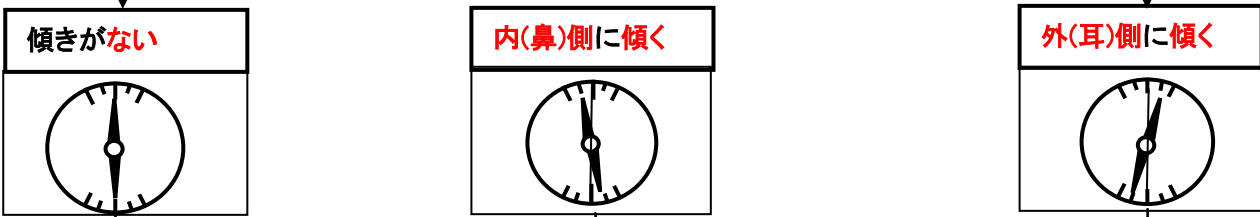
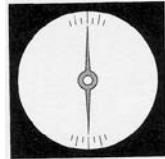
立体視(+)

凹凸の一方のみ判る場合は、その旨を記載すること。

立体視(-)

回旋斜位(時計)テスト

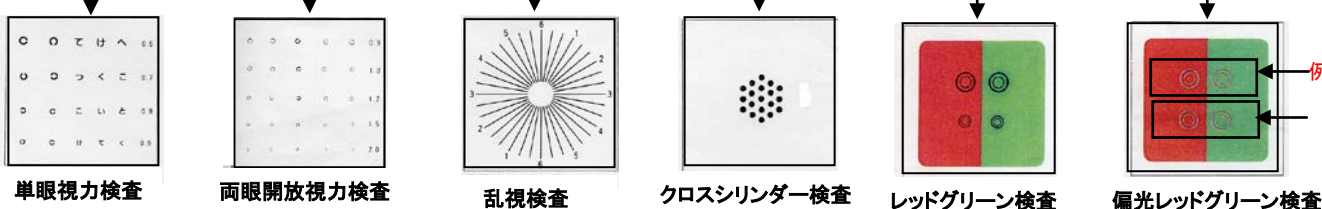
* 回旋偏位眼に | 固視眼に ⊙ が見える場合



目盛りは 5° 刻み。
詳しくは 5.眼位検査の項で。

回旋偏位なし 時計の針が見える眼の外方回旋斜視(位) 時計の針が見える眼の内方回旋斜視(位)

その他: 単眼視力検査・両眼開放視力検査・乱視検査・クロスシリンダー検査・レッドグリーン検査 例) ニコン製



例) 右眼のみ
左眼のみ } 両眼開放下でのS面の微調整

偏光版テストのシュミレーション

- ① ポラテストと視力検査器の下方にある十字の2班に分かれる
- ② 一人が被検者となり、プリズムを Base in、out、斜め、up、down に装用し、それぞれ見え方を言う。
- ③ それぞれの見え方を理由とともに記載する。